

第25号 平成24(2012)年1月20日(金)

移住協通信

ふらの市移住促進協議会事務局

〒076-8555

北海道富良野市弥生町1番1号 富良野市企画振興課内

TEL:0167-39-2304 FAX:0167-23-2121

E-mail: info@ju.furano.ne.jp



移住体験モニターツアーのプログラム募集します

平成24年3月15日(木)～19日(月)の期間に、富良野での生活を体験していただく移住体験モニターツアー「素のライフinふらの2012」を開催します。

ツアー期間中に協議会会員によるイベントも募集しています。住宅の展示会や投雪機の試運転会など、富良野での冬の暮らしに関係するイベントを行っていただける会員の企業は事務局までご連絡ください。

移住促進フォーラム ～富良野らしいライフスタイルと移住・定住～

平成24年2月9日(木)

午後3時～5時 午後2時30分開場 富良野文化会館2階 中会議室

富良野市の人口は、昭和40年をピークに減少傾向にあります。その要因は、高度経済成長による都市への集中から、近年では少子高齢化と地域産業の低迷による雇用場所の減少が考えられます。

富良野市への移住希望者は年々増加傾向にあり、市では様々な相談業務を行っています。また、ふらの市移住促進協議会では、富良野の魅力やPRしたり、実際の生活体験を通じて移住の第一歩をサポートする活動を実施しています。

移住を受け入れるために、移住者が求める情報提供や環境づくりは必要不可欠なものです。富良野市の魅力を最大限に活かし、空き家や賃貸住宅等を利用した「二地域居住」の推進が可能なのか？移住者が求める生活環境を把握し、ニーズに合った状況づくりが可能なのか？など、移住者の住宅ニーズや生活ニーズを知り、移住・定住そして地域活性化につなげる取り組みを展開するため「富良野らしいライフスタイルと移住・定住」をテーマに講演会を開催します。

また、講演会のなかで、新たなビジネスとして提唱されている「ライフウエア産業※1」についても紹介をいただき、今後の移住者受け入れに向けた新たな事業へのアドバイスをいただきます。

移住促進フォーラム
～富良野らしいライフスタイルと移住・定住～

富良野市の人口は、昭和40年をピークに減少傾向にあります。その要因は、少子高齢化と地域産業の低迷による雇用場所の減少が考えられます。

富良野市への移住希望者は年々増加傾向にあり、市では様々な相談業務を行っています。また、ふらの市移住促進協議会では、富良野の魅力やPRしたり、実際の生活体験を通じて移住の第一歩をサポートする活動を実施しています。

移住を受け入れるために、移住者が求める情報提供や環境づくりは必要不可欠なものです。富良野市の魅力を最大限に活かし、空き家や賃貸住宅等を利用した「二地域居住」の推進が可能なのか？移住者が求める生活環境を把握し、ニーズに合った状況づくりが可能なのか？など、移住者の住宅ニーズや生活ニーズを知り、移住・定住そして地域活性化につなげる取り組みを展開するため「富良野らしいライフスタイルと移住・定住」をテーマに講演会を開催します。

また、講演会のなかで、新たなビジネスとして提唱されている「ライフウエア産業※1」についても紹介をいただき、今後の移住者受け入れに向けた新たな事業へのアドバイスをいただきます。

講師
北海道大学観光学高等研究センター
教授 佐藤 誠 氏

【経歴】
札幌大学経済学部教授、経済学博士、札幌大学名誉教授(2004年)
東北大学大学院経済学研究科教授、経済学博士、2009年現在東北大学
経済学部長、東北大学大学院経済学研究科長(2009年～2011年)
2011年現在富良野市立大学経済学部長(2011年～2012年)
【著書】
『移住の経済学』(2009年)、『移住の経済学』(2011年)
【講演】
富良野市移住促進協議会 2011年、2012年、2013年、2014年、2015年、2016年、2017年、2018年、2019年、2020年、2021年、2022年、2023年、2024年

【主催】
富良野市 富良野市企画振興課 富良野市移住促進協議会
【協賛】
富良野市 富良野市企画振興課 富良野市移住促進協議会
富良野市 富良野市企画振興課 富良野市移住促進協議会
富良野市 富良野市企画振興課 富良野市移住促進協議会

平成24年 2月9日(木)
午後3時～5時 富良野文化会館
午後2時30分開場 2階 中会議室

入場無料

主催：ふらの市移住促進協議会
協賛：富良野市 富良野市企画振興課 富良野市移住促進協議会 富良野市観光協会
山内工業 富良野商工会 北海道各地域振興協議会旭川支会富良野分区分

※1 「ライフウエア産業」
「都市の力」である2次・3次産業と「村のいのち」である1次産業を統合させ、風景や伝承文化などの地域資源と結びつけること